

1. 再び、「氷河をわたる風」に乗って
人生後ろを振り向くなと言う
人が居ます。しかし、体験した時間
の中にあんなにも甘い夢、若い親が居り、
兄弟姉妹が生き生きと暮らしていたあ
の時を、そして何よりも、一緒に青春
を分かち合った友が居る、あの時をど
うして振り返ってはいけないのだろう
か。外国生活が四十年を越すと思いは
どうしても故郷に向かいます。



テンブル山の中腹を埋め尽くす黄葉の落葉松

以前、この飯田高校同窓会ホームページに「氷河をわたる風」と題して投稿させて頂きましたが、ネタ切れとなり、止めてから六年が経ちました。ホームページは故郷を求めて何時も開いていました。そんな所に、原健彦さんから、投稿を促す心温まるメールが届きました。夢の中から本物の手紙を受け取ったような嬉しい気持ち。そして、もう一度故郷へ氷河をわたる風を送ろうかと思いを立ちました。

私の住んでいるカナダ、カルガリーは、只今、秋の終わり、日本と違って、今年の夏は雨が多く、寒い夏でしたが、秋に入って晴天が続き夏よりも暖かい感じでした。インディアン サマー。それでも、9月16日には初雪がありました。家から見えるロッキーの



Ten Peaks の1番目 Mt. Fay(左)と3番目 Mt. Bowlen (右)

山々も大分白くなりました。山や野原、町の中まで黄金色に彩られています。かえでが殆どなく、ポプラ、白樺、落葉松などが多い地方なので、秋は、紅葉ではなく、黄葉です。

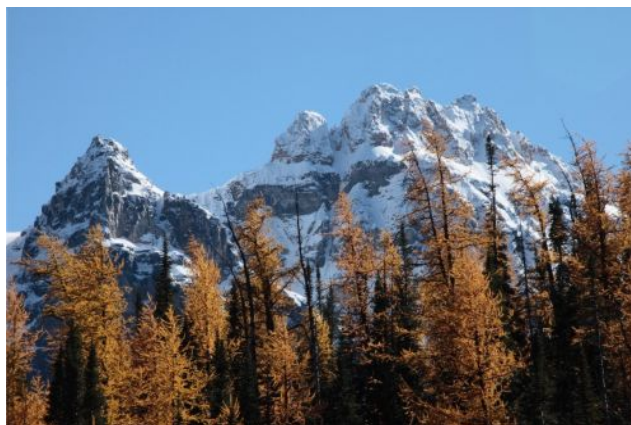
ロッキーの山も落葉松の黄葉で美しく彩られています。落葉松の黄葉が始まるとロッキーの花の時期は終了です。ロッキーの花の時期は、六月の下旬頃からアルペン・メドーに、グレーシャー・リリーの花が咲き始め、

そして次々と花が咲き誇り、落葉松の黄葉で終わりを告げます。次の便りからそんなロッキーのシーズンを楽しみたいと思いますが、今回はシーズンの終わり、ロッキーの落葉松の黄葉を紹介いたします。

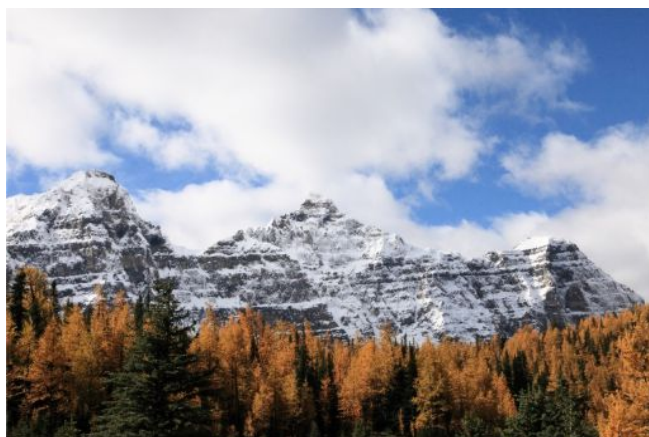
ロッキーの秋は落葉松の黄金色に彩られます。常緑樹の上方、森林限界の下あたりに絵筆で細かく色づけたように特徴のあるタッチで描き出されます。いずれの場所も歩いて登らねばなりません。最もポピュラーなところは、ラーチ・バレー（落葉松の谷）でしょう。ラーチ・バレーはレイズ湖の裏側、西方10キロの所にあるモレイン湖から登ります。

モレイン湖はテン・ピークスに囲まれた美しい湖です。以前は道が悪くて、バスが入らず、訪れる人が少なく静かな湖でした。しかし、道が整備され、観光バスが入るようになってから、大分賑やかになってきました。時には、湖の出口をふさぐ小高いモレインの岩山の上から、「おかーさん」と呼ぶ日本語も聞かれるようになりました。

ラーチ・バレーは、湖の真ん中辺り、バンガロー群の途切れた所から林の中に入るルートを通ります。センチネル・パスへの片道5.8キロのトレールの途中にあります。カナダ松、モミの木などの大木の深い林の中にトレールは入ります。初めはゆるい登りですが、途中から息が切れるほどの坂になります。上のほうに行くと、林が少し切れて、モレイン湖の氷河湖独特のエメラルドの水面が木々の間から、下方に、ちらり、ちらりと見えます。そんな坂を大小12曲がり、登りきるとラーチ・バレーの入り口に辿り着きます。ここまで、ゆっくり登って1時間15



4 番目の Mt. Tonsa



左から 7 番 Mt. Tuzo, 8 番 Mt. Deltafrom, 9 番 Mt. Neptuak



Minnestimma 湖から見た Sentinel Pass

分。私達の歩き方だと若い人達にどんどん追い抜かれます。三脚やレンズなど、カメラの機材と少々の食料を担いで登るとそんなものです。

ここで道は二つに分かれ、右に行くとラーチ・バレーを経て、センチネル・パスへ、左に行くと、ロッキーで最も透明度の高いアイフェル湖を経てレンチャム・パスへ通じています。右をとると落葉松の林に入ります。

思わず白秋の「落葉松の林を過ぎて、、、」と口ずさみたくなるような細道が林の奥へと通じてゆきます。落葉松林が切れて野原が広がる少し手前、樹間から、ロッキー山脈で三番目に高いテンブル山の中腹斜面に広がる、広大な落葉松林が眼に入ってきます。

林を出ると小川が流れていて、丸木橋が架かっています。それを渡ると、雪でうっすらと化粧したテン・ピークスが、左手からのしかかってきます。その裾は落葉松の林で彩られています。さらに登ってきた方向、東側には氷河を乗せた Mt. Fay が聳えています。ここで一休み。週日に来ると人が殆ど居ないので静かに山を楽しめます。しかし、この日は週末である上に落葉松の黄葉の最盛期であったため、多くの国からの人で賑わっていました。誰もがこの素晴らしい黄葉を見たいようです。

雪の山を見ながら、開けた野原を横切ってもう少し上に行ってみます。再び落葉松の林に入る所から道はゆるい上りになります。明るい落葉松林から氷河が垣間見えます。幾分息を切らせながら登ってゆくと、森林限界線の上に出て、俄かに視界が開けます。ここからは 10 番目の Mt. Wenkchamna 以外のテン・ピークスの殆どが見えます。モレイン湖で見るとこれらの山が湖を囲んでいるように感じますが、ここから見ると山々は東から西へと一列に並んでいることが分かります。

これらの山には 1894 年、Samuel Allen による発見当時、それ以前にこの山の存在を知っていたインディアンに敬意を表して、ストーン・インディアン語の数で名前が付けられました。しかし、後、ヨーロッパ人が名前を付け変えてしまい、それが固定したため、オリジナルの名前は今三つしか残っていません。参考のために東から西へと番号が付けられたオリジナルの名前と、カッコ内に現在の名前を記しておきましょう。

1. Heejee (Fay, 3,235m), 2. Nom (Babel, 3,101m), 3. Yamnee (Bowlen), 4. Tonsa, 5. Sapta (Perren), 6. Shappee (Allen 3,301m), 7. Sagowa (Tuzo), 8. Saknowa (Deltafrom, 3,424m),
9. Netupuak, 10. Wenkchamna



Sentinel Pass から Paradise へ Valley を眺める



Bow Valley の方向に果てしなく黄葉が続く

森林限界線を越えるとアルペン・ヘザーなどの高山植物が絨毯のようにみっしり覆うなだらかな斜面となります。前方にセンチネル・パスに登る壁が見えてきます。その斜面にジグザクのトレールが見えます。後方には落葉松の黄葉に彩られたボー・バレーが遥か彼方まで続きます。落葉松の黄葉と雪の山の撮影にはもってこいの場所です。もう少し歩くと **Minnestimma Lake** に着きます。小さな湖ですが綺麗な水があふれています。この後、何時もならもう 40 分かけて **Sentinel Pass** に登るのですが、今回は撮影に時間を掛け過ぎたので、登るのを諦めて下りに着きました。

今年は、ここに三回登りました。6月28日に登った時はまだ雪に覆われていて、足の装備が悪いメンバーが居てこの湖までにしました。7月30日は夏の登山、好転に恵まれ、峠まで登りきりました。登りきった向こう側には **Paradise valley** がはるか下方に見えます。そこに下る途中にはこの峠の名前、**Sentinel** を思わせるような岩の尖塔が衛兵のように幾つも立ち上がっています。中々の眺めです。またいつか機会があったら紹介いたします。そして最後は、9月25日、落葉松の黄葉が最後でした。

Minnestimma Lake からゆっくり下りながら見る景色は、登りで振り返ってみるのとは一味違って、落葉松の黄葉と氷河の山の中に入っていきような、素晴らしい眺めです。**Larch Valley** までは撮影のために立ち止まる回数が多く時間が掛かります。しかし、林の中のジグザク道の下り坂になると、足も速くなり、75分掛かった道も50分で歩いてしまいました。

Sentinel Pass

近辺はどんな季節でも楽しめる場所です。秋の黄葉も素晴らしいですが、夏の高山植物の花盛りの撮影時期も、夢中にしてくれる面白いところです。また段々に紹介いたします。今回はここまでに致します。



2番目の Mt. Babel, 下方に小さな Babel の塔がついている